

Erratum

2022年8月号 (Vol.42 No.9) 「3-4 偶然発見された股関節と脊椎の異常」(p.868) について

自衛隊中央病院放射線科 寺村易予, 藤川 章
武蔵野陽和会病院 西村 玄

SED tarda (spondyloepiphyseal dysplasia tarda: 遅発性脊椎骨端異形成) は, type 2 collagenopathy や attenuated Morquio syndrome などを含む広義の診断名である. 2022年8月号で提示した症例 (図1) は, 遺伝子検査が実施されておらず, また, 典型的な X-linked SED tarda の画像所見とは異なるため, 広義の SED tarda (SED late onset) と述べるにとどまる. 2022年8月号の文中では, X-linked SED tarda と混同したような記述であったため訂正する.

椎体の扁平化がみられることは共通であるが, X-linked SED tarda の画像診断的特徴は, 腰椎側面像での後方のこぶ状隆起 (hump)¹⁾ である (図2; →). 提示症例 (図1) は椎体後部がむしろ減高しており, X-linked SED tarda とは異なる画像所見であった.

腰椎単純CT矢状断像



■ 図1 60歳台, 男性 広義の SED tarda
(2022年8月号 p.868 図1-B 提示症例)

腰椎単純X線側面像



■ 図2 図1とは別症例, 成人男性
X-linked SED tarda (西村玄先生提供症例)

文献

- 1) Icton JA, Horne G: Spondylo-epiphyseal dysplasia tarda: the X-linked variety in three brothers. J Bone Joint Surg Br 68: 616-619, 1986.